

2nd June 2018

The Present Position of Studies on the History of Economic Thought

経済学史研究の現状と未来

Atsushi KOMINE (Ryukoku Univ.)

小峯敦 (龍谷大学)

第1節 四段階の研究人生

(1) ケンブリッジ学派の貨幣理論

※学部時代 (1984-88) : 荒憲治郎先生 (1925-2002) 新古典派総合

- ・西部邁『経済倫理学序説』中央公論社。・西部邁『ケインズ』岩波書店。
- ・ケインズ『説得論集』『人物評伝』

※大学院時代 (1988-94) : 美濃口武雄先生 (1937-) ケインズ研究

- ・ Eshag (1963), Bridel (1987), Bigg (1990): Dennis Robertson, Ralph Hawtrey, Hubert Henderson, Pigou, Marshall など、ケンブリッジ学派全般

(2) 経済政策思想史

※大学院時代 (1988-94) : 西沢保先生 **経済政策思想史**

- ・ Booth (1983), Clarke (1988) : 政策におけるケインズ革命

※助手および講師時代 (1994-98) : 新人から積極的な活動へ

- ・ ホートレーの商人経済論・乗数論 ・ ノーマン総裁とケインズ

(3) 福祉の経済思想家たち

※助教授時代 (1999-2005) : 国際的な活動の場へ

- ・ 2001.7 : オーストラリアの学会 HETSA でデビュー
- ・ 2001.9-2002.9 : **エクセター大学**で在外研究 (ブース)
- ・ 2004 : 初めて海外雑誌に掲載

※助教授・准教授時代 (2005-08) : 大学の移動 (新潟から京都へ)

- ・ 2007 : 単著『ベヴァリッジの経済思想』昭和堂。
- ・ 2007 : 編著『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版。

- ・学会活動：編集委員、企画交流委員、大会組織委員

#### (4) ケインズとその同時代人

※教授時代 (2008-)：中堅から老練へ

- ・2009.9-2010.9：ケンブリッジ大学クレアホール、在外研究
- ・2014：*Keynes and his Contemporaries*, Routledge
- ・原典・原点に回帰：ケンブリッジ学派の伝統と革新におけるケインズ

※代表幹事 (2017-18)：管理および官吏

- ・戦争と平和の経済思想 (2016 年度共通論題)
- ・テキストマイニング分析 (YSS 2012 のテーマ)

## 第2節 経済学史の現状

### (1) この数字は何か？

- ・854 人 (1998 年) 最大ピークから 591 人 (2018 年)
- ・8770 万円 (2017 年) から 4470 万円 (2018 年)

### (2) 経済学史の影響力の低下？

- ・SSCI：Kurz (2006: 464)によれば、2誌のみ
- ・ただし、2018年には4誌になって、さらに関連雑誌も登録された
- ・周辺化：経済学史の講座数、科目重要性、科研費の割当・出願数、日本学術会議の科目別参照基準

### (3) その理由 (経済学者の側から)

- ・進歩史観が未だに科学者を貫いている。
- ・「経済学者は反証主義を実践すべきだが、実際にはほとんどそれを実践していない」(Hands 2001: 277/訳 270 頁)
- ・新古典派総合 (マクロとミクロの棲み分け) という単純な方法が崩壊した
- ・「理論は計測に先立つ。経済学者の中にはビックデータに落とし穴を見て取る傾向があった。」(Haldane 2018: 3)

### (4) その理由 (経済学史家の側から)

- ・経済学の最先端に追いつくのが非常に困難
- ・極端な数理化、極端な実証化に二分？
- ・日本では、経済学史の講座が十分に確立していたという事情（孤立化）
- ・経済学史の方法論・戦略で内部分裂がある（1つにもっと外部へ＝科学論  
その他に傾斜せよ；もう1つにもっと内部へ＝経済学部に戻せよ）

### 第3節 経済学史の3つの利点

#### (1) 過去に注目（分業体制）

- ・テキストの注釈（訓詁学）：労力をかけて精確に（版異同、著者目録）
- ・文脈主義：社会的背景と個人的動機（メモや文通の解析が有用）
- ・物語的：隠された知的ネットワークを発見する
- ・テキストとコンテキストは相互依存的（Skinner 1988: 29）
- ・歴史的再構成：我々同士、経済学者・経済史家を／と つなげる
- ・たのしみ：それ自体が知的活動、研究者自身のために

#### (2) 現在に注目（創造的破壊）

- ・合理的再構成：テキスト内部の論理を現代の理論的視点から、普遍的な価値を見いだすため
- ・過去の学説を現代的視点から蘇らせる作業は、多くの実例がある
- ・たくらみ：果実（具体的成果）を求めた活動、研究者界隈のために

#### (3) 未来に注目（全体的再構成）

- ・「パノラマ＝シナリオ・モデル」：全景的に、特定の観点を秘めて「未来の目的のために、過去に照らして現在を研究する」（Keynes 1924: 351）。
- ・「存在論的アプローチ」（塩野谷 2009: 351）
- ・記念碑的歴史：英雄・有名人だからという理由だけで研究する
- ・骨董品的歴史：無視されてきたという理由だけで研究する
- ・思想史の全景を見渡した上で、特定の評価基準を堅持・明示しながら、なぜこの思想（家）を研究しているかを常に問い直す
- ・たしなみ：共通善のための知識、市民社会のために
- ・「経済学をひらく」（Wallerstein 1996 の社会科学をひらく）

・「我々（経済思想家）は批評家であり、解釈者であり、橋渡し役である」（Kurz 2006: 475）。

・「良い経済学史は経済理論の方法と歴史的な方法の両方で書かれる能力を示している」（Marcuzzo 2008: 113）。

・「我々は多面的知識を有する最後の人である」（Trautwein 2017: 28）。

・「現在の経済的・社会的生活の問題を理解することに従事している社会科学として、経済学の公共的な役割を強調するのが本質的である」（Cardoso 2015: 244）。

#### 第4節 今できること（3つの示唆）

##### （1）他分野に参入せよ（中期的目標）

・耳目を集めるために：経済学史を経済学から完全に切り離すのではなく、似た興味を持っている他分野の研究者と協働せよ

・他分野の例：経済史、日本思想、科学哲学、政治思想、社会学、心理学、教育学、脳神経科学など

・現代的な論題？：中央銀行論、利己心、ジェンダー、消費者主権、受益者負担、競争、戦争と平和、その他

##### （2）他分野の方法論を自らに応用せよ（短期的目標）

・ペティ（1690）『政治算術』「比較級や最上級のことばのみを用いたり、思弁的な議論をする代わりに、自分が言おうとしていることを数・重量・尺度を用いて表現しよう…」（まえがき、訳 24 頁）

・小野塚知二（2017: 18）『経済史』：経済だけは成長する（量的な拡張）、他の分野（法・政治・教育・文化など）は変化・発展するのみ。

・テキストマイニング分析（自然言語処理＋データマイニング）：ビッグデータから発見的な知を見いだす。解釈の過程を可視化（科学をひらく）。

・原点である「数量化」を直視。その方法を解釈する。

・「デジタル環境が提示する可能性と機会とを活用するために、急速に進化するデジタル環境について、私たちの知識を拡張しなければならない」（American History Association 2015）

(例示) ESHET と HES の会長講演

- ・ ESHET : 2000-2016 (2年ごと ; 例外あり) の 11 講演
- ・ HES : 2007-2017 (1年ごと ; 脱漏あり) の 9 講演
- ・ (i)経済学 (史) の現状を憂う、(ii)自分の専門に引きつける

- ・ 頻度分析 : 名詞・固有名詞・形容詞を選択。この情報だけでも貴重。
- ・ 共起ネットワーク分析 : 共起の頻度と結びつきを視覚化。中心の単語も。  
(ESHET : HET, thought, European, HES : statistical, inference, American)
- ・ 専門用語自動抽出システム (TermExtract) : 重要な複合語を抽出。  
(ESHET : economic thought ; HES : american economics )

(3) 所属する組織・属性を運営せよ (長期的目標)

- ・ 教育上の工夫 : 学部 (高大連携、初年次教育)、大学院 (研究の技法の準必修化)、調停役 (教務、委員長・学部長・学長) として。
- ・ 若い研究者へ : 大学の置かれた状況を熟知し、どのような需要があるのか推測せよ (英語・ALT)。多様な研究者と良い関係を築く。

## Reference

### ●Author's selected publications

- Komine, A. (1994) "From Hawtrey to Keynes: 'Dealer Economics' and the Impact of the Multiplier Theory", *Annals of the Society for the History of Economic Thought*, 32: 74-85, October 1994. (in Japanese) (小峯敦「ホートレーからケインズへ—「商人経済論」と乗数理論の影響—」『経済学史学会・年報』32号、74-85、1994.11。)
- Komine, A. (1998) "Lord Norman and Keynes: the Effect of the Bank Rate and Rationalisation", *Annals of the Society for the History of Economic Thought*, 36: 64-75, October 1998. (in Japanese) (小峯敦「ノーマン総裁とケインズ—公定歩合の効果と合理化問題—」『経済学史学会・年報』36号、64-75、1998.10。)
- Komine, A. (2004) "The Making of Beveridge's *Unemployment* [1909]: There Concepts Blended", *The European Journal of the History of Economic Thought*, 11(2): 255-280, Summer 2004.

Komine, A. (2007) *W. H. Beveridge in Economic Thought: A Collaboration with J. M. Keynes et al*, Kyoto: Showa-do, 2007. (in Japanese) (小峯敦『ベヴァリッジの経済思想～ケインズたちとの交流』昭和堂、2007年。)

Komine, A. (2014) *Keynes and his Contemporaries: Tradition and Enterprise in the Cambridge School of Economics*, Abingdon, Oxon: Routledge.

Komine, A. ed. (2007) *How Did Economists Deal with Welfare?* Kyoto: Nakanishiya Publisher Ltd., 2007 (revised 2010). (in Japanese) (小峯敦編『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版、2007年。)

●Presidential Addresses [Eshet in descending order]

<http://www.eshet.net/index.php?a=18> (access: 21 May 2018)

**Trautwein, H. (2017)** “The Last Generalists”, *European Journal of the History of Economic Thought*, 24(6): 1131-1133; DOI: 10.1080/09672567.2017.1378694. [ESHET 2016]

Cardoso, J. L. (2015) “Liberalism and Enlightened Political Economy”, *European Journal of the History of Economic Thought*, 22(6): 934-948; DOI: 10.1080/09672567.2015.1088878. [ESHET 2014]

**Rosselli, A. (2013)** “Economic History and History of Economics: In Praise of an Old Relationship”, *European Journal of the History of Economic Thought*, 20(6): 856-881; DOI: 10.1080/09672567.2013.838979. [ESHET 2012]

Hagemann, H. (2011) “European émigrés and the ‘Americanization’ of Economics”, *European Journal of the History of Economic Thought*, 18(5): 643-671; DOI: 10.1080/09672567.2011.629056. [ESHET 2010]

**Marcuzzo, M. C. (2008)** “Is History of Economic Thought a ‘Serious’ Subject?”, *Erasmus Journal for Philosophy and Economics*, 1(1): 107-123. [ESHET 2008]

**Kurz, H. D. (2006)** “Whiter the History of Economic Thought? Going Nowhere rather Slowly?”, *European Journal of the History of Economic Thought*, 13(4): 463-488; DOI: 10.1080/09672560601063929. [ESHET 2006] (「経済思想史の行方：ゆっくりとどこへも行かず?」、ハインツ・D. クルツ『シュンペーターの未来～マルクスとワルラスのはざまで』中山智香

子訳、日本経済評論社、2008年、第3章所収。)

Arena, R. (2004) “European Economics: Ahistorical Perspective”, mimeo. [ESHET 2004]

Schefold, B. (2002) “Presidential Address”, mimeo. [ESHET 2002]

Streissler, E. W. (2002) “Not at All a ‘Slightly Depraved Entertainment’”, mimeo. [ESHET 2002]

Schefold, B. (2001) “Presidential Statement”, mimeo. [ESHET 2001]

●Presidential Addresses [HES in descending order]

Boianovsky, M (2018) “2017 HES Presidential Address: Economists and their Travels, or the Time when JFK Sent Douglass North on a Mission to Brazil”, *Journal of the History of Economic Thought*, 40(2): online version, DOI: 10.1017/S1053837217000591.

Biddle, J. (2017) “2016 HES Presidential Address Statistical Inference in Economics, 1920-1965: Changes in Meaning and Practice”, *Journal of the History of Economic Thought*, 39(2): 149-173. DOI: 10.1017/S1053837216001164.

Schabas, M. (2015) “2014 HES Presidential Address Bees and Silkworms: Mandeville, Hume, and the Framing of Political Economy”, *Journal of the History of Economic Thought*, 37(1): 1-15. DOI: 10.1017/S1053837214000716.

Dimand, R. W. (2014) “HES Presidential Address: The Global Economic Crisis in Light of the History of Interwar Monetary Economics”, *Journal of the History of Economic Thought*, 36(1): 3-21. DOI: 10.1017/S105383721300045X.

Mirowski, P. (2013) “2012 HES Presidential Address Does the Victor Enjoy the Spoils? Paul Samuelson as Historian of Economics”, *Journal of the History of Economic Thought*, 35(1): 1-17. DOI: 10.1017/S1053837212000600.

Evensky, J. (2012) “HES Presidential Address: What’s Wrong with Economics?”, *Journal of the History of Economic Thought*, 34(1): 1-20. DOI: 10.1017/S1053837212000028.

- Medema, S. G. (2011) “HES Presidential Address: The Coase Theorem Lessons For the Study of the History of Economic Thought”, *Journal of the History of Economic Thought*, 33(1): 1-18. DOI: 10.1017/S105383721000060X.
- Bateman, B. W. (2008) “2007 HES Presidential Address Reflections on the Secularization of American Economics”, *Journal of the History of Economic Thought*, 30(1): 1-20. DOI: 10.1017/S104277160800001X.
- Hands, D. W. (2007) “2006 HES Presidential Address A Tale of Two Mainstreams: Economics and Philosophy of Natural Science in the Mid-Twentieth Century”, *Journal of the History of Economic Thought*, 29(1): 1-13. DOI: 10.1080/10427710601178260.

●Others

- American History Association (2015) “Guidelines for the Professional Evaluation of Digital Scholarship by Historians”, URL: <https://www.historians.org/teaching-and-learning/digital-history-resources/evaluation-of-digital-scholarship-in-history/guidelines-for-the-professional-evaluation-of-digital-scholarship-by-historians>, June 2015. (菊池信彦ほか訳「歴史学におけるデジタル研究を評価するためのガイドライン」(2016年4月) URL: [https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=41793&item\\_no=1&page\\_id=28&block\\_id=31](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=41793&item_no=1&page_id=28&block_id=31)) (access: 26 May 2018)
- Beveridge, J. (1954) *Beveridge and his Plan*, London: Hodder and Stoughton.
- Bigg, R. J. (1990) *Cambridge and the Monetary Theory of Production: The Collapse of Marshallian Macroeconomics*, London: Macmillan.
- Booth, A. (1983) “The ‘Keynesian Revolution’ in Economic Policy-making”, *Economic History Review*, 36(1): 103-123. DOI: 10.1111/j.1468-0289.1983.tb01226.x
- Bridel, P. (1987) *Cambridge Monetary Thought: The Development of Saving-Investment Analysis from Marshall to Keynes*, London: Macmillan.
- Clarke, P. (1988) *The Keynesian Revolution in the Making 1924-1936*,



- Oxford: Clarendon Press.
- Haldane, A. G. (2018) “Will Big Data Keep Its Promise?”, Bank of England, data analytics for finance and macro research centre, King’s Business School, 19 April 2018;  
<https://www.bankofengland.co.uk/-/media/boe/files/speech/2018/will-big-data-keep-its-promise-speech-by-andy-haldane.pdf> (access: 16 May 2018)
- Hands, D. W. (2001) *Reflection without Rules*, Cambridge: Cambridge University Press. (高見典知・原谷直樹・若田部昌澄監訳『ルールなき省察～経済学方法論と現代科学論』慶應義塾大学出版会、2018年。)
- Kate S. (2013) *Defending the History of Economic Thought*, Cheltenham, UK: Edward Elgar.
- Keynes, J. M. (1924) “Alfred Marshall 1842-1924”, *Economic Journal*, 34(135): 311-372.
- Mirowski, P. (2002) *Machine Dreams: Economics Becomes a Cyborg Science*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Moscatti, I. (2008) “More Economics, Please: We’re Historians of Economics”, *Journal of the History of Economic Thought*, 34(1): 85-91. DOI: 10.1017/S1042771608000070.
- Nishibe, S. (1983a) *An Introduction to Economic Ethics*, Tokyo: Chuo Koron Sha. (in Japanese) (西部邁『経済倫理学序説』中央公論社、1983年。)
- Nishibe, S. (1983b) *Keynes*, Tokyo: Iwanami Shoten, Publishers. (in Japanese) (西部邁『ケインズ』岩波書店、1983年。)
- Onozuka, T. (2018) *Economic History: A Clue to know Today and live the Future*, Tokyo: Yuhikaku. (in Japanese) (小野塚知二『経済史～いまを知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年。)
- Petty, W. (1690) *Political Arithmetick*, at the McMaster University Archive of Economic Thought, <https://socialsciences.mcmaster.ca/~econ/ugcm/3ll3/petty/index.html> (access: 19 May 2018). (大内兵衛・松川七郎訳『政治算術』岩波文庫、1950年。)
- Schabas, M. (1992) “Breaking Away: History of Economics as History of Science”, *History of Political Economy*, 24(Spring): 187-203.
- Shionoya, Y. (2009) *Principles of Economic Philosophy: the Hermeneutical*

- Approach*, Tokyo: University of Tokyo Press. (in Japanese) (塩野谷祐一『経済哲学原理～解釈学的接近』東京大学出版会、2009年。)
- Skinner, Q. (1988) *Meaning and Context: Quentin Skinner and his Critics*, edited by Tully, J. Princeton: Princeton University Press. (半澤孝磨・加藤節編訳『思想史とはなにか～意味とコンテクスト』岩波書店、1990年。)
- Voltaire. (1759) *Candide*.  
[https://fr.wikisource.org/wiki/Candide,\\_ou\\_l%27optimisme/Beuchot\\_1829/Chapitre\\_30](https://fr.wikisource.org/wiki/Candide,_ou_l%27optimisme/Beuchot_1829/Chapitre_30) (access: 21 May 2018) (ヴォルテール『カンディード』齊藤悦則訳、光文社古典新訳文庫、2015年。)
- Wallerstein, I. (1996) *Open the Social Sciences: Report of the Gulbenkian Commission on the Restructuring of the Social Sciences*, Stanford: Stanford University Press. (山田鋭夫訳『社会科学をひらく』藤原書店、1996年。)
- Weintraub, E. R. (2002a) *How Economics Became a Mathematical Science*, Durham, NC: Duke University Press.
- Weintraub, E. R. (2002b) “Will Economics Ever Have a Past Again?” *History of Political Economy*, 34 (supplement 1): 1-14. DOI: 10.1215/00182702-34-Suppl\_1-1
- Winch, D. (1962) “What Price the History of Economic Thought?”, *Scottish Journal of Political Economy*, 9(3): 193-201.